韓国日本語学会 ニュースレター

[2020-01]

発行人: 黄永熙 / 編集人: 國生和美 / 発行所: 韓国日本語学会 / 発行日: 2020.1.23

学会長 新年の挨拶	2
役員名簿	3
常任理事会	8
会員情報	9
その他の学会ニュース	10
学術大会 結果報告	15
編集委員会	18
『日本語學研究』論文投稿案内	19
学会ホームページ案内	25

〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室
http://www.jlak.or.kr
(研究編集事務局長: 朴慧眞) 010-7450-4055
(学術事業企画事務局長: 張允娥) 010-2893-2042
(教育広報事務局長: 中村有里) 010-7457-7001
jlak123@hanmail.net

学会長 新年の挨拶

韓国日本語学会 会員の皆様
新年あけましておめでとうございます。

韓国日本語学会は、1999年9月の設立から20年3ヶ月の時を経ました。また、11代執行部が出帆してから3ヶ月が過ぎようとしています。その間、新たな理事会の構成を終え、ホームページ全面改編などのシステム整備及び、3月に予定している連携協力研究会との合同開催を準備しながら新年を迎えました。

韓日関係は未だ、暗雲が立ち込めています。空気が冷えると、私の住んでいるところからは北漢山をありありと望むことができます。韓日関係も冷え切ってしまっているからこそ、より鮮明になると期待せずにはいられません。昨年、日本の痕跡が残る九龍浦を踏査してきました。マーケティングと克服との多重な意味が内在する混成された景観から、日本語学も文化としてすべきことがたくさんあるのだと実感しました。留学生活を経験された方は記憶に残っているのではないかと思いますが、私にとって日本の香りといえば金木犀でした。遠く離れた場所からでも感じられるほど、その甘く力強い香りは隠しきれないものでした。そこから“眞實”という花言葉が生まれたそうです。自分自身を隠すことも騙すこともない“眞實”。本年は、そのような真実の果実が実ることを祈っています。

Hallidayが述べた「言語の使用が、人間が持つ貴重な財産であるということは、言語のコミュニケーション能力のためであるが、人間は言語を介して意思疎通を行うことにより、お互いに合意を成すことができ、[調整的機能(Regulatory Function)]、新たに発見したことを後世に伝えることができ、[相互適用的機能(Interactional Function)]、相手に自分の感情を正確に伝えることができるためである[個人的機能(Personal Function)]」、という言説のように、日本語が誰かによって今もどこかで実践的な行動として使用されており、韓国日本語学会はそれを収集し、批判的に分析すべきだと考えます。

シン・ヨンボクは‘처음처럼’で、「けれども、もう一つ、最も遠い旅行があります。胸から足までの旅行です。足は実践です。フィールドであり森林です。」と述べています。足跡は残り、記録されます。今すべきこと！生きていると感じる瞬間！！開始(Birth)と終了(Death)の狭間は、選択(Choice)！！！3月21日には、漢陽サイバー大学において第41回国際学術大会を連携協力研究会と合同開催し、日本語学の詳細分野と日本語教育を融合する深みのある学術の場を設けました。研究者、教育者として生きていると感じられる学会への参加という選択をお願いしたく存じます。

2020年 元旦
韓国日本語学会第11代会長 黄永熙

役員名簿

■常任理事

役職		氏名	所属	E-mail
会長		黃永熙	漢陽サイバー大学	tohyh@hanmail.net
副会長	研究	盧妊鉉	德成女子大学	chel99@hanmail.net
	編集	蔡盛植	高麗大学	csshhs@korea.ac.kr
	学術	郭銀心	京畿大学	kwak5017@naver.com
	事業企画	李埈瑞	聖潔大学	korjs2@gmail.com
	教育弘報	角ゆりか	明知大学	whitelily1227@hotmail.co.jp
総務理事	研究編集	朴孝庚	漢陽サイバー大学	phk0502@hanmail.net
	学術事業企画	孫栄奭	済州大学	freewill1472@naver.com
	教育弘報	魚住泰子	仁川大学	tacchu.j@gmail.com
財務理事		殷守希	淑明女子大学	esh0407@naver.com
評価理事		梁乃允	中央大学	ynaeyun@hanmail.net
学術理事		金義泳	ハンバッ大学	cara202@gmail.com
		金惠娟	聖潔大学	mahou@hanmail.net
		朴江訓	全州大学	hun0531@naver.com
		白以然	高麗大学	thyako@hanmail.net
編集理事		朴善玉	大眞大学	psoibm@hanmail.net
		兪樹延	全南大学	tokyoforeign@hanmail.net
		尹榮珉	延世大学	marchen52@naver.com
		李粋昺	嘉泉大学	suhyang1022@naver.com
出版理事		崔裕京	漢陽女子大学	ykchoi@hanmail.com
情報理事		李相怡	明知専門大学	zzivi@hanmail.net
弘報理事		國生和美	東國大学	kazumi0121@naver.com
国際交流理事	日本	金廷珉	亜細亜大学	kjm0630@gmail.com
		朴秀娟	神戸大学	parksooyun@gmail.com
		尹智鉉	早稲田大学	yoon.jh.2030@gmail.com
		鄭惠先	北海道大学	jung@oia.hokudai.ac.jp
	中国	母育新	西安外国語大学	wuyuxin@xisu.edu.cn
		撟 燕	北京外国語大学	qiao0922@aliyun.com
		全紫蓮	慶尙大学	shizen9021@daum.net
	台湾	羅曉勤	台湾銘傳大学	hclo@mail.mcu.edu.tw
		河在必	韓国外国語大学	hajp75@hufs.ac.kr
	オーストラリア	Lee, Duck-Yong	The Australian National Univ.	duck.lee@anu.edu.au
対外協力理事	ソウル	迫田亜希子	崇實大学	as982095@gmail.com
	京畿	鄭榮美	韓国観光大学	youngmi0425@hotmail.com
	江原	高慧禎	カトリック関東大学	nunbusida@hanmail.net
	忠北	李忠奎	西原大学	ch4229@hanmail.net

	忠南	金玄珠	ハンバッ大学	khj15@hanbat.ac.kr
	慶北	李慈鎬	慶北大学	ljh2008@knu.ac.kr
	慶南	趙恩英	釜山外国語大学	choeun215@gmail.com
	全北	安志英	群山大学	ajy@kunsan.ac.kr
	全南	林禔映	全南大学	jy-lim@chonnam.ac.kr
	済州	高暎喜	済州大学	kyh080jp@gmail.com
	日本	金照雄	時事日本語社	marketing1@korea.com
事業企画理事		李舜炯	慶北大学	soonhl@knu.ac.kr
		趙宣映	仁川大学	huyuski@daum.net
事務局長	研究編集	朴慧眞	ソウル女子大学	maipark@naver.com
	学術事業企画	張允娥	延世大学	willyoubehere@gmail.com
	教育弘報	中村有里	仁川大学	yoolee@inu.ac.kr
監事		文彰鶴	韓国外国語大学	kudosmoon@hanmail.net
		李承英	光云大学	sylee27@kw.ac.kr

■**一般理事**(国内:가나다順, 海外:五十音順)

〈国内〉		
検校裕朗(極東大)	姜炅完(大邱カトリック大)	高恩淑(韓國科學技術大學)
琴鍾愛(忠南大)	金東奎(韓国外大)	金平江(祥明大)
朴才煥(京畿大)	方允炯(水原大)	白同善(江原大)
酒井真弓(德成女大)	朴良順(蔚山科學大)	朴英淑(水原科學大)
成玧妵(祥明大)	孫在賢(德成女大)	宋殷美(白石大)
宋正植(仁荷工專)	辛銀真 (明知大)	梁敏鎬(釜慶大)
吳玹定(建國大)	元智恩(崇實大)	李東哲(新羅大)
張根壽(祥明大)	張元哉(啓明大)	鄭起永(釜山外大)
鄭相美(新羅大)	鄭夏俊(湖南大)	蔡京希(培花女大)
黃圭三(瑞逸大)		

〈海外〉		
阿部貴人(専修大学)	嵐洋子(杏林大学)	磯野英治(名古屋商科大学)
李在鎬(早稲田大学)	植松容子(昭和女子大学)	宇都木昭(名古屋大学)
大塚 薫(高知大学)	沖 裕子(信州大学)	荻野綱男(日本大学)
奥野由紀子(首都大学東京)	生越直樹(東京大学)	落合由治(台湾淡江大学)

金庭久美子(立教大学)	金 愛蘭(日本大学)	金智賢(宮崎大学)
金 蘭美(横浜国立大学)	倉持香(Volkshochschule Augsburg)	河野俊之(横浜国立大学)
白岩広行(立正大学)	全永男(中国延辺大学)	高木千恵(大阪大学)
Daniel Long(首都大学東京)	Tiziana CARPI(ミラノ大学)	CHUSRI,Asadayuth(チュラーロンコーン大学)
中山亜紀子(広島大学)	名嶋義直(琉球大学)	西川朋美(お茶の水女子大学)
野田尚史(国立国語研究所)	橋本直幸(福岡女子大学)	藤岡典子(シンシナティ大学)
松丸真大(滋賀大学)	村上敬一(徳島大学)	山内博之(実践女子大学)

■編集委員会(2020.1.1-2021.12.31)

委員長：曺英南 (高麗大学)

監事：尹榮珉 (延世大学)

音声学 音韻論	閔光準(建国大) 鄭炫赫(サイバー韓国外大) 戸田貴子(早稲田大学/日本) *高慧禎(カトリック関東大)	語用論 社会言語学	洪珉杓(啓明大) 荻野綱男(日本大学/日本) 生越直樹(東京大学/日本) 盧姓鉉(徳成女大) *鄭賢児(西京大)
通時論 形態論	張根壽(祥明大) 裵銀貞(釜山外大) 金廷珉 (亜細亜大学/日本) Lee,Duck-Yong (The Australian National Univ./豪州) *朴江訓(全州大)	日本語教育	落合由治(淡江大学/台湾) 李美淑(明知大) 李恩美 (明知大) 鄭相美(新羅大) *金義泳 (ハンバッ大) 倉持香(Volkshochschule Augsburg/ドイツ)
意味論 語彙論	*李慈鎬(慶北大) 張元哉(啓明大) 李羽濟(白石藝大)	日本語史	羅工洙(嶺南大) 林禔映(全南大) * 朴孝庚(漢陽サイバー大)
その他 日本語学	李朱利愛(梨花女大) 盛文忠(上海外国語大学/中国) 鄭惠先(北海道大学/日本) *辛銀眞(明知大)	◆「*」は、実務担当編集委員(実務委員) そのほかは審査担当編集委員(査読委員)である。	

■研究倫理委員会

委員長	盧姓鉉 (德成女子大学)
委員	姜炅完 (大邱カトリック大学), 朴江訓 (全州大学), 酒井真弓 (德成女子大学), 梁敏鎬 (釜慶大学), 張良光 (カトリック大学)

■学術研究発展委員会

委員長	高慧禎 (カトリック関東大学)
委員	朴海煥(淑明女子大学), Lee, Duck-Yong (The Australian National Univ.), 李承英 (光云大学), 全紫蓮 (慶尙大学), 洪珉杓 (啓明大学)

■学術誌発展委員会

委員長	李恩美 (明知大学)
委員	朴江訓 (全州大学), 朴孝庚 (漢陽サイバー大学), 曺英南 (高麗大学) 蔡盛植 (高麗大学), 洪珉杓 (啓明大学)

■日本語教育発展委員会

委員長	角ゆりか(明知大学)
委員	金志宣(梨花女子大学), 中村有里(仁川大学), 持田祐美子(平澤大学), 迫田亜希子(高麗大学) , 川口慶子(崇實大学), 小島堅嗣(培材大学)

■学術賞選定委員会

委員長	洪珉杓 (啓明大学)
委員	姜錫祐 (カトリック大学), 朴海煥 (淑明女子大学) , 李暻洙 (韓國放送通信大学) 李吉鎔 (中央大学), 李恩美 (明知大学), 曺英南 (高麗大学)

■発展基金委員会

委員長	李埈瑞(聖潔大学)
委員	高慧禎 (カトリック関東大学), 金惠娟(聖潔大学) 崔正勲 (CS インターナショナル)

■諮問委員会

監事	姜錫祐 (カトリック大学)
委員	康仁善 (聖公會大学), 金玉任(誠信女子大学), 盧明姬(東國大学) 閔光準 (建國大学), 朴海煥 (淑明女子大学), 李暻洙 (韓國放送通信大学) 李吉鎔 (中央大学), 李範錫 (カトリック大学), 李漢燮 (高麗大学) 尹幸舜 (ハンバッ大学), 鄭相哲 (韓国外国語大学), 洪珉杓 (啓明大学)

常任理事会

＊第一次　常任理事会

(2019 年 12 月 6 日(金) 16:00 時事日本語社 本館 401 号)

1. 執行部　関連報告

- 第 11 代 韓国日本語学会 全体構成の報告及び、執行部・常任理事へ委嘱状交付

2. 学術　関連報告

- 連携研究会学術大会(3 月), 国際学術大会(9 月)開催について
- 2020 年(9 月)学術大会の主題及び開催校について

3. 編集　関連報告

- 第 62 輯『日本語学研究』発行　進行状況の報告
- 学術誌デジタル化について
- 英文要旨の校正費用(投稿者納付)

4. 財務　関連報告

- 共同著者に関して(全著者、会員加入必須)
- 海外での学会参加及び、学術団体への後援調整
- 予算決算管理システムの整備

5. 弘報及び情報　関連報告

- ホームページ更新に関する報告(ヌリメディアとの契約維持・リニューアル)
- ニュースレター発行回数の調整

6. 国際　関連報告

- 台湾日本語文学会及び、中日対照言語学会参加予定

7. その他

- 各委員会の構成及び、連携研究会の紹介

会員情報

○ 出版

教材名：『취업면접일본어』
著者：사사히로코, 장윤희
出版社：한국외국어대학교출판부 지식출판원(HUINE)
出版日：2019-10-07

教材名：『語彙の原理(シリーズ＜日本語の語彙＞1)』
著者 ： 石井正彦(編)、石井正彦・佐藤武義・宮田公治・山崎誠・金愛蘭・石黒圭・木村義之・池上尚・荒川清秀・横山詔一・庵功雄・大谷鉄平・佐竹久仁子(著)
出版社：朝倉書店
出版日：2019-10-01

○ 任用及び、転任

金義泳 会員
ハンバッ大学 日本語科 助教授任用(2019.09)

早矢仕智子 会員
宮城学院女子大学・大学院非常勤講師

○ 事務局

〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科
黄永熙教授研究室

http://www.jlak.or.kr
(研究編集事務局長: 朴慧眞) 010-7450-4055
(学術事業企画事務局長: 張允娥) 010-2893-2042
(教育広報事務局長: 中村有里) 010-7457-7001
jlak123@hanmail.net

● 審査料及び掲載料の納付先
국민은행(kookmin Bank) 014301-00-002268
은수희(한국일본어학회) 殷守希(韓国日本語学会)

・個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌(http://jlak.or.kr/modules/doc/index.php?doc=search&__M_ID=27)よりダウンロードできますのでご利用ください。

その他の学会ニュース

1. 2019年度 学術賞

◆ 2019年度 韓国日本語学会学術賞

○ 受賞者: 尹京愛(嶺南大學校)

○ 論文題目: 민태원의『레 미제라블』 번역 연구-일본어 기점텍스트와의 비교를 중심으로-

(第56輯, 2018年 6月, pp.75-102) [論文19-01]

韓國日本語學會
學 術 賞
論文題目 : 민태원의 『레 미제라블』 번역 연구
—일본어 기점텍스트와의 비교를 중심으로—
(『日本語學研究』 第56輯, 2018年 6月)
著 者 : 尹 京 愛(嶺南大學校)
위 論文은 지난 2年間(2017年~2018年) 本 學會 學術誌 『日本語學研究』에 掲載된
論文 중에서 優秀 論文으로 選定되어, 이에 韓國의 日本語學研究와 日本語敎育
發展에 크게 이바지한 功勞가 認定되므로 韓國日本語學會 學術賞을 드립니다.
2019年 9月 21日
韓國日本語學會長 李 吉 鎔

* 選定理由:この論文は、フランス語原作である『レ・ミゼラブル』が英語訳と日本語訳から韓国語に重訳される過程で起こった変容の様相を、1910年前後の韓国社会の政治的・社会的背景と結びつけて分析したという点で大きな意義がある。特に、まえがきの翻訳分析を通じて 翻訳の目的を、固有名詞(人名、地名)の翻訳分析を通じて翻訳の方法(異国化翻訳なのか自国化翻訳者なのか)を、さらに、叙事構造の翻訳分析を通じて、原作の内容の変 容の実態と過程を具体的に究明したという点で、学術的価値が高いと判断される。

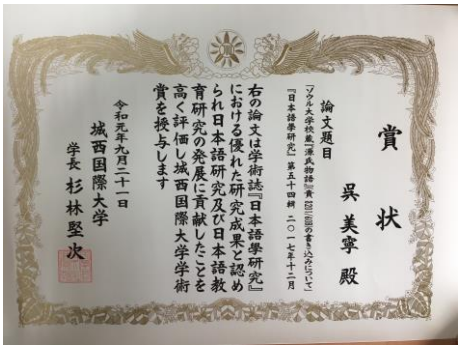
* 本学術賞の副賞として授与された賞金の財源は、本学会諮問委員会の後援金により助成されたものです。

◆ 2019年度 城西国際大学学術賞

○ 受賞者: 呉美寧(崇実大学校)

○ 論文題目: ソウル大学校蔵『源氏物語』(貴3201/60B)の書き込みについて

(第54輯, 2017年 12月, pp.125-138) [論文19-02]


賞状

論文題目

呉美寧殿

右の論文は学術誌『日本語學研究』における優れた研究成果と認められ日本語研究及び日本語教育研究の発展に貢献したことを高く評価し城西国際大学学術賞を授与します

令和元年九月二十一日

城西国際大学

学長 杉林堅次

* 選定理由:この論文は、日本の代表的な古典と言える『源氏物語』(ソウル大所蔵本)の注記を通して、写本の特徴を綿密に調査したものである。その具体的な特徴として、漢字使用率が高く内容を理解しやすくした注釈的本文、及び高度学習本という点、さらに「朱」と「墨」で本文の上に様々な内容が多数記入されている点を示した。また、表記や発音と関連のある濁点・不濁点、漢字に記入された振り片仮名、平仮名に記入された振り片仮名、平仮名に記入された振り漢字等を具体的な数値で示した点と、文献刊行当時の大名階級の学問的水準と文字表記、そして具体的な発音をそれぞれ用例を挙げて提示した点が、学術的に高く評価できる。

○ 受賞者: 坂口清香 (韓国外国語大学校)

○ 論文題目: 上級会話授業における教師コメントの分析 –上級会話の教科書作成に向けた取り組み– (第58輯, 2018年 12月, pp.22-44) [論文19-03]

賞状

論文題目

坂口清香殿

右の論文は学術誌『日本語學研究』における優れた研究成果と認められ日本語研究及び日本語教育研究の発展に貢献したことを高く評価し城西国際大学学術賞を授与します

令和元年九月二十一日

城西国際大学

学長 杉林堅次

* 選定理由:この論文は、韓国人大学生日本語学習者を対象に実施した三年間の上級会話授業で教師が学習者に行ったコメントを類型化し分析することにより、多くの学習者が困難を感じる点と学習者が自分では認識しづらい点、学習者に必要な教師の授業活動の内容と方法等を具体的に示したものである。また、その結果を踏まえて、望ましい授業活動を提案し、その提案内容を反映した上級会話教科書を実際に作成することで、日本語教育に大きく 貢献した点が高く評価できる。

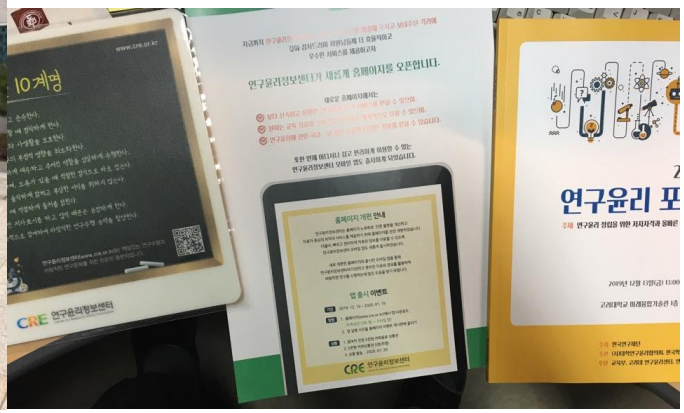
* この学術賞は、当学会と学術賞協定を締結した城西国際大学と共同で設けたものであり、副賞として授与された賞金(各 10 万円)の財源は、城西国際大学の後援金により助成されたものです。

2. 諮問委員会

本学会の諮問委員会では、学会発展のためにさまざまな活動を推進しています。学術賞の副賞として授与される賞金の後援も行っています。

3. 2019年度 研究倫理フォーラム

「2019 研究倫理フォーラム」は、韓国研究財団主催で 2019 年 12 月 13 日に高麗大学未来融合技術館 1 階の大講堂にて行われました。蔡盛植編集副会長が代表で参加しました。



4. 第8回 韓国大学生日本語ディベート大会後援

本学会は、日本語学研究の成果の活用と社会的寄与という観点から、<韓国大学生日本語ディベート大会>を2016年第5回大会から公式的に後援してきました。優勝校は以下の通りであり、各優勝校に、韓国日本語学会長賞を授与しました。

・[ソウル大会] 優勝: 西京大学, 準優勝: 京畿大学, 3位: 明知大学

・[プサン大会] 優勝: 東西大学, 準優勝: 釜山外国語大学, 3位: 東國大学(慶州キャンパス)

・[全国大会] 優勝: 釜山外国語大学, 準優勝: 東西大学, 3位: 京畿大学 / 西京大学

2019年9月28日 ソウル大会の授賞のため、盧姓鉉 学術副会長(11代 研究副会長) が列席しました。
2019年9月29日プサン大会, 2019年10月5日全国大会の授賞のため、趙恩英 対外協力理事が列席しました。

5. 2020年3月 連携協力研究会合同学術大会発表者募集

2020年3月21日(土) 漢陽サイバー大学 融合教育館(予定)にて、連携協力研究会合同学術大会を開催する予定です。ご発表を希望される方は、 jlak_study@naver.com (学術理事) まで、お問い合わせ・お申し込みくださいますよう、お願いいたします。発表申し込みの締め切りは、2月7日(金) , 発表要旨の締め切りは、2月21日(金) となっております。

併せて、**第42回 秋季国際学術大会**は、**2020年9月19일日(土)**に高麗大学にて開催する予定です。早期発表申し込みの締め切りは、2月14日(金)となっております。

6. 姉妹学会学術大会

台湾日本語文学会国際学術大会が、2019年12月14日、東吳大学にて開催されました。朴江訓 学術理事が代表として列席しました。その他にも、李曙洙教授と房極哲教授も列席しました。2020年度台湾日本語文学会は12月に開催される予定ですので、ご発表を希望される方は事務局までお問い合わせください。

学術大会結果報告

【 第40回 国際学術大会 結果報告 】

○ 日時：2018年 9月 21日(土)

○ 場所：聖潔大学

○ “グローバル人材育成のための日本語教育の実践”という主題で麗澤大学の近藤 彩先生の招聘講演、韓國職業相談協會の林敬植 事務総長の特別公演があり、多くの会員の皆様にご参加いただきまして、成功裡に終了しました。

○ 聖潔大学 のご協力に感謝申し上げます。

韓國日本語學會
第40回 國際學術發表大會論文集
Proceedings of the 40th General Meeting of the JLAK
September 21, 2019

글로벌 인재 육성을 위한 일본어교육의 실천
グローバル人材育成のための日本語教育の実践

2019년 9월 21일(토)
성결대학교

주최 : 한국일본어학회·성결대학교 문화Frame Big Data 연구소·중앙대학교 일본연구소
주관 : 한국일본어학회· 성결대학교 문화Frame Big Data 연구소
후원 : 성결대학교 Career 개발처·JAPAN FOUNDATION SEOUL·시사일본어사

韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

協力研究会

📖 韓国継承日本語教育研究会 📖

「日本語教育推進法案」の成立までの経過と今後の課題

韓国継承日本語教育研究会　桜井恵子

「日本語教育の推進に関する法律」が 国会の会期切れを目前にしてやっと成立し、2019年6月28日に公布、施行されました。この法律は日本に多くの外国人労働者を受け入れるに際して日本国内の日本語教育の拡充、海外における日本語教育の充実を目指していますが、海外にいる戦前渡航した日系人や企業から派遣されている日本人と違って、日本を出自として海外に永住していく戦後渡航者の母語の継承教育に対する配慮が欠けている点が問題になりました。当研究会もメンバーであるMHB（母語、継承語、バイリンガル）学会の海外継承日本語部会を中心として2018年から政府に対して条文の修正を求める請願運動を行ってきました。世界の多様な地域から2000通を超える署名や意見書が寄せられ、その結果条文の改定がなされ、日本にルーツを持つ海外在住者の子どもたちも日本語教育の対象に含まれるものとなりました。

現在、韓国には韓日国際結婚家庭に生まれた18歳以下の子どもが17195人（2015年）います。そのほとんどが韓国の学校に通っており、日本人学校に通っている子どもは少ないです。日本人学校に入学するには日本に帰国予定があるという証明書を提出しなければならないからです。世界には平日は現地の学校に通い、週末には日本語を学ぶ補習授業校が50か国に205校設置されていますが、韓国には一校もありません。そのため父母たちが独自に日本語や日本文化を教える小さな教室を作り始めています。

2018年10月に当研究会が呼びかけて韓国の中にある20ほどの日本語教室を運営する人々が一堂に集まり、ゆるい連絡網ができました。そのできたばかりの連絡網によって、法律の条文の改定と早期成立を求める署名請願運動が行われ、大きな盛り上がりを見せました。

法律はできましたが、教室の場所の確保や、教材、カリキュラム、指導法、教師の研修や養成など問題は山積しています。

多言語多文化環境で育つ子どもは両国の架け橋となるグローバル人材に育つ可能性を秘めていることに鑑み、今後、当研究会が各教室のニーズを把握し、プログラムを立て、連携を図ると共に、担当官庁や在外公館、国際交流基金などの支援を求めていきたいと考えています。

日韓コミュニケーション研究会

私ども日韓コミュニケーション研究会は、2013 年5月に「在韓待遇コミュニケーション勉強会」として発足し、その後、待遇コミュニケーションだけでなく広く日韓のコミュニケーション全般に関わる研究に取り組んでいく趣旨のもと現在の名称へ変更し、今日に至ります。2019 年1月現在、会員は7名在籍しており、韓国在住会員6名、日本在住会員1名となっています。毎年9月を活動開始時期に設定し、1年間で何らかの成果を出すこと(学会発表、論文投稿、教材出版等)を目標にしています。これまでは、共同研究を中心に取り組んできましたが、より多様な研究がしやすいように、現在は個人での研究活動も盛んに行っています。また定期的に全体会を実施し、研究の構想の相談や意見交換、共同研究や個人研究の進捗状況の報告、また会員による学術発表などを行い、お互いに切磋琢磨しながら研究を進めています。

こうした活動によって、韓国内外の学会において会員による口頭発表や学術誌への論文掲載のほか、書籍の出版等様々な形で成果をあげています。今年も『日本語学研究』59 号に持田祐美子先生・中村有里先生の論文「日本国内における謝罪研究の動向と展望」が掲載されたほか、2018 年に出版された持田祐美子先生・伊吹早耶香先生・伊藤貴雄先生の共著による「스피치에 강해지는 일본어 작문 트레이닝」(スピーチに強くなる日本語作文トレーニング)が版を重ねるという嬉しい話題もありました。

今後も韓国日本語学会主催の学術行事に積極的に参加し、韓国における日本語関連の研究および教育の発展に力を尽くしていきたいと思います。ご興味をお持ちの方は、ぜひ当研究会へご参加ください。

編集委員会

【62 輯編集委員会】

・第 1 次 編集委員会 (2019. 10. 18. 時事日本語学院本館 303 号室)

1) 第 62 輯 投稿論文確認及び報告 (13 編)

2) 第 62 輯 投稿論文審査委員選定

3) 第 62 輯 審査日程論議

4) 第 62 輯 投稿論文審査依頼

・第 2 次 編集委員会 (2019. 11. 2. サイバー編集委員会)

1) 第 62 輯 審査進行確認

・第 3 次 編集委員会 (2019. 11. 14. 時事日本語学院本館 303 号室)

1) 第 62 輯 投稿論文審査結果報告及び確認

2) 第 62 輯 投稿論文審査の結果、9 編の掲載を決定

3) 第 62 輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

・第 4 次 編集委員会 (2019. 11. 22. サイバー編集委員会)

1) 第 62 輯 投稿者修正内容確認

2) 英文要旨監修依頼、チェクサラン編集依頼

・第 5 次 編集委員会 (2019. 12. 4. 図書出版チェクサラン)

1) 第 62 輯 1 次刊行作業経過確認

2) 第 62 輯 1 次刊行作業及び校正作業

・第 6 次 編集委員会 (2019. 12. 10. 図書出版チェクサラン)

1) 第 62 輯 最終校正作業

2) 第 62 輯 印刷依頼

3) 編集委員会今後の日程確認

・『日本語學研究』第 62 輯 発行 (2019. 12. 20.)

『日本語学研究』投稿規定

▣ 投稿規定

第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条(投稿資格)

①原則的に本学会の会員に限る。

②会員との共同投稿者及び招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。

③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条(投稿論文受付)

①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(http://jlak.jams.or.kr)から提出する。

②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。

③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員会における審査担当編集委員(査読委員)1人以上が含まれることを原則とする。

第9条(審査料及び掲載料)

①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。

②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。

③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。

④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

第10条(校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条(別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌２部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

第12条(著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

第13条(その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

〈付則〉

・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。

『日本語学研究』投稿要領

▣ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿は ㅎ글を使用して作成することを原則とし、 ㅎ글で入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。

但し、外国在住などの理由で、 ㅎ글 を使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

①論文題目

②著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。

(例 : 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる５つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥本文

⑦注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論

文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』6 한국일본어학회 pp.1-5

_____(2004)「일본어 대우표현의 특징」『일본어학연구』10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房 pp.1-5

Rakoff, L. (1973) Language and Women's Place. *Language in Society*, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に〈図1〉、〈表1〉のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。(例: http://www.jlak.or.kr/ (検索日: 2014.3.20))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

▣ 審査料及び、掲載料入金要領

[要旨発刊費]

■入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

[審査料]

■入金期限:論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

[掲載料]

■入金期限:掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文 : 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

[入金口座]

■口座番号 : 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希<韓国日本語学会>)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎　審査料)

［審査及び掲載用論文提出先］

本学会オンライン投稿システム(http://jlak.jams.or.kr)から提出する。

▣ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類：使用者定義, 幅170, 縦240

■余白：上20, ヘッダー10, 下10, フッター0, 左15, 右15

2.論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落　アウトデント　12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

※　学会ホームページの論文作成例示を参考にすること。

学会ホームページのご案内

韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。会員の皆様におかれましては、無料オンライン会員加入後にサービスをご利用くださいますよう、お願いいたします。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語學研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報

学会ホームページ URL

http://www.jlak.or.kr/

한국일본어학회

■ 학회사무국	■ 学会事務局
〒04763 서울특별시 성동구 왕십리로 220 한양사이버대학교 일본어학과 황영희 교수 연구실 (研究編集事務局長:박혜진) 010-7450-4055 (学術事業企画事務局長:장윤아) 010-2893-2042 (教育広報事務局長:나카무라 유리) 010-7457-7001	〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室 (研究編集事務局長: 朴慧眞) 010-7450-4055 (学術事業企画事務局長: 張允娥) 010-2893-2042 (教育広報事務局長:中村有里) 010-7457-7001
E-mail : jlak123@hanmail.net	Homepage : http://www.jlak.or.kr

ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。

記事の掲載をご希望の方は、メール (jlak123@hanmail.net) までご連絡ください。